

### 17. Adult T-cell lymphoma leukemia 患者に対するガリウムシンチグラフィ

原田 邦子 星 博昭 陣之内正史  
尾上 耕治 長町 茂樹 小沢 美幸  
森 由紀子 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

Adult T cell lymphoma leukemia 患者 20 例にガリウムシンチグラフィをおこない臨床的検討をおこなった。使用した装置は Maxicamera 400 T (G.E.), LFOV (Searle Radiographics) であり, 中エネルギーコリメータを装着した。検査方法は  $^{67}\text{Ga}$ -citrate 3 mCi 静注後 72 時間後に全身のスポットを撮像した。異常集積がみられたものは 20 例のうち 16 例で臓器別陽性例数では表在リンパ節 3 例, 深部リンパ節 7 例, 肺 9 例, 肝 1 例, 骨 1 例であった。ガリウムシンチにて新たな病巣が検出されたのは 8 例であった。また, 異常集積のみられたものは末血白血球数, 血清 LDH が高い傾向にあった。

### 18. 扁平上皮癌関連抗原 (SCC) RIA キットの臨床的検討

陣之内正史 星 博昭 森 由紀子  
原田 邦子 尾上 耕治 長町 茂樹  
小沢 美幸 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

悪性腫瘍 94 例, 良性疾患 10 例および正常対照 16 例を対象に血清 SCC 値の臨床的検討を行った。測定にはダイナボット社製 SCC RIA キットを用いた。正常例の SCC 値は  $1.45 \pm 0.24 \text{ ng/ml}$  で,  $2.0 \text{ ng/ml}$  をカットオフレベルとした。頭頸部扁平上皮癌の陽性率は, 33 例中 10 例 30% で, stage が進行するほど高くなる傾向がみられた。肺癌の陽性率は, 34 例中 14 例 33% とくに扁平上皮癌では 13 例中 8 例 62% と高かった。食道癌では 4 例中 2 例 50% で, 他の悪性腫瘍の陽性率は低かった。CEA 値と SCC 値とは, 頭頸部扁平上皮癌では軽度の相関がみられ ( $r=0.55$ ), 肺癌では相関がみられなかった ( $r=0.01$ )。

### 19. Neuron-Specific Enolase (NSE) RIA キットの臨床的検討

森 由紀子 星 博昭 陣之内正史  
原田 邦子 尾上 耕治 長町 茂樹  
小沢 美幸 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

悪性腫瘍 94 例, 良性疾患 8 例, 合計 102 例を対象として, 血清 NSE 値の臨床的検討を行った。測定には, 栄研の NSE ( $\gamma$ -エノラーゼ) キットを用い, 判定は  $10 \text{ ng/ml}$  以上を陽性とした。肺癌の陽性率は 32 例中 9 例, 28% で, 小細胞癌 6 例のうち 5 例が陽性であった。臨床病期別では stage I~II に陽性例はなく, stage III の 11 例中 2 例, stage IV の 18 例中 7 例が陽性であった。NSE 値と CEA 値の相関はみられなかった。肺癌以外の悪性腫瘍は 62 例中 13 例, 21% が陽性であり, 良性疾患 8 例は全例陰性であった。

### 20. $\beta_2$ -マイクログロブリン測定の基礎的・臨床的検討

吉田 喜策 一矢 有一 綾部 善治  
桑原 康雄 和田 誠 松浦 啓一  
上山 昭子 (九州大・放)  
(同・放部)

ダイナボット社製  $\beta_2$ -マイクロ・RIA KIT の基礎的, 臨床的検討を行った。基礎的検討では同時再現性, 日差再現性, 回収率, 希釈試験ともに良好であった。健常者 66 名での測定値は  $0.80 \pm 0.25 \text{ mg/l}$  (mean  $\pm$  S.D.) であり,  $1.3 \text{ mg/l}$  以下を正常値とした。臨床例での検討では, 主に腫瘍マーカーとしての意義を検討した。その結果, 良性肝疾患 95 例での陽性率は 58.9%, 悪性疾患 221 例では 61.5% であり, 両者で大差なく, また疾患特異性も見られなかった。胃癌, 大腸癌 60 例で CEA との相関を, 肝癌 74 例で AFP との相関を検討したが,  $\beta_2$ -マイクログロブリンとこれらに相関関係は見られなかった。